

【 福生市 】 胃がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく胃がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上)	している
検査方法 (胃部X線検査)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	16,699	17,720	34,419
【東京都調査による対象者率(市町村部): 57.8%】			
実際の受診者数	283	312	595

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	35～39歳
左記以外の検査の実施	していない

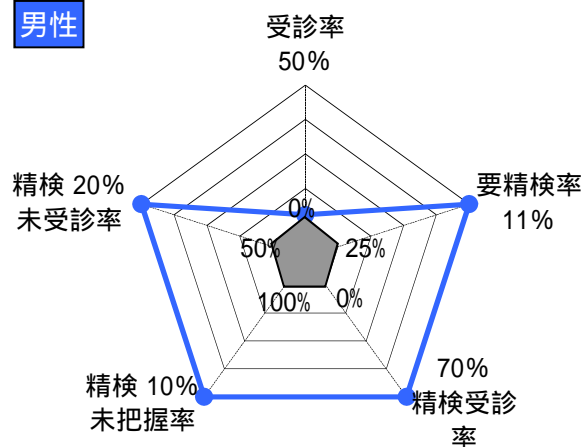
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	していない
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

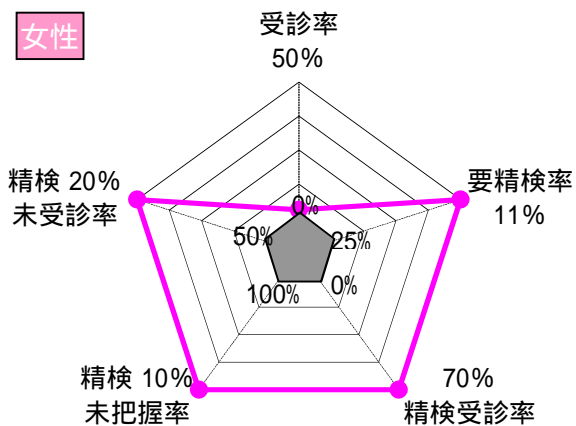
< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	2.9%	3.0%	3.0%
要精検率	11%以下	1.8%	0.6%	1.2%
精検受診率	70%以上	100.0%	100.0%	100.0%
精検未把握率	10%以下	0.0%	0.0%	0.0%
精検未受診率	20%以下	0.0%	0.0%	0.0%
陽性反応適中度	1.0%以上	0.0%	0.0%	0.0%
がん発見率	0.11%以上	0.00%	0.00%	0.00%

男性



女性



【評価結果】

< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

【 福生市 】 肺がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく肺がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上)	している
検査方法 (胸部X線検査及び喀痰細胞診)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	16,699	17,720	34,419
【東京都調査による対象者率(市町村部): 64.5%】			
実際の受診者数	283	287	570

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	35～39歳
左記以外の検査の実施	していない

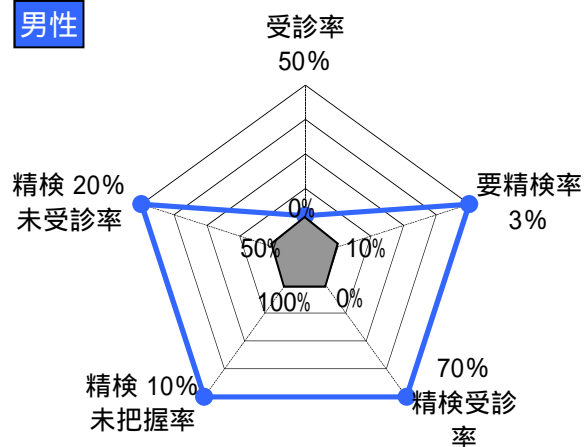
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	していない
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

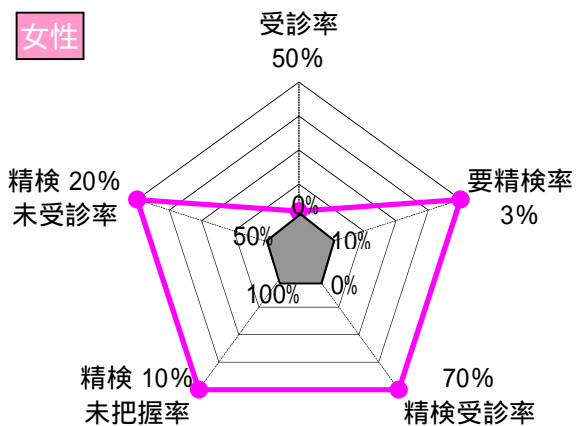
< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	2.6%	2.5%	2.6%
要精検率	3%以下	0.7%	0.3%	0.5%
精検受診率	70%以上	100.0%	100.0%	100.0%
精検未把握率	10%以下	0.0%	0.0%	0.0%
精検未受診率	20%以下	0.0%	0.0%	0.0%
陽性反応適中度	1.3%以上	0.0%	0.0%	0.0%
がん発見率	0.03%以上	0.00%	0.00%	0.00%

男性



女性



【評価結果】

< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

【 福生市 】 大腸がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく大腸がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上)	している
検査方法 (便潜血検査(二日法))	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	16,699	17,720	34,419
【東京都調査による対象者率(市町村部): 62.0%】			
実際の受診者数	3,231	4,771	8,002

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	35～39歳
左記以外の検査の実施	していない

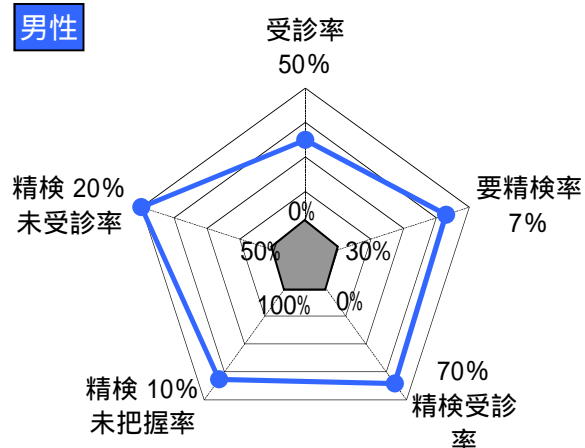
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	していない
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

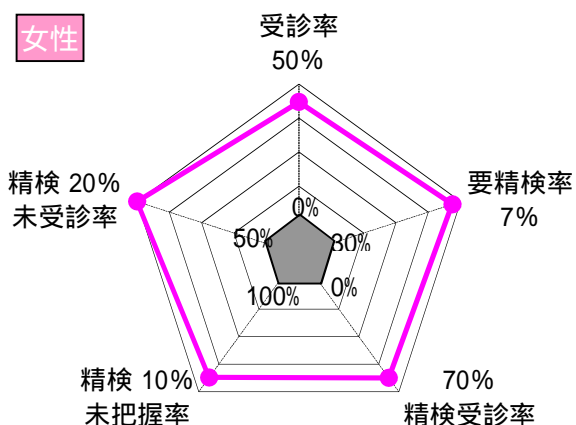
< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	31.2%	43.4%	37.5%
要精検率	7%以下	11.1%	8.4%	9.5%
精検受診率	70%以上	59.8%	61.3%	60.6%
精検未把握率	10%以下	26.5%	21.6%	23.9%
精検未受診率	20%以下	13.7%	17.1%	15.5%
陽性反応適中度	1.9%以上	6.4%	2.5%	4.3%
がん発見率	0.13%以上	0.71%	0.21%	0.41%

男性



女性



【評価結果】

< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 要精検率 >

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

< 精検受診率 >

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

< 精検未把握率 >

高めの精検未把握率です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握が必要です。

【 福生市 】 子宮頸がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく子宮頸がん検診の実施状況 >

対象年齢 (20歳以上:隔年)	している
検査方法 (細胞診)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		24,648	
【東京都調査による対象者率(市町村部): 67.1%】			
実際の受診者数		1,130	

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

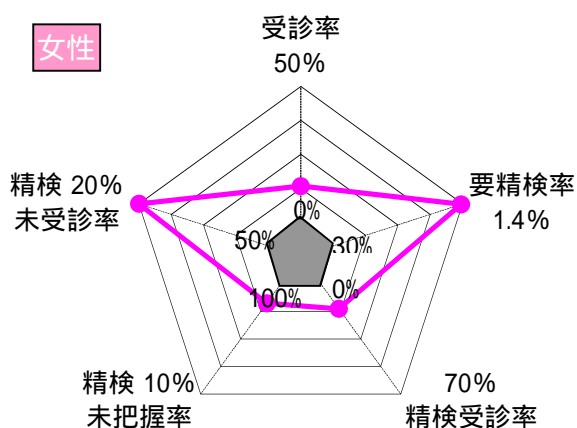
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	していない
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		13.3%	
要精検率	1.4%以下		1.7%	
精検受診率	70%以上		15.8%	
精検未把握率	10%以下		84.2%	
精検未受診率	20%以下		0.0%	
陽性反応適中度	4.0%以上		0.0%	
がん発見率	0.05%以上		0.00%	

【評価結果】



< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 要精検率 >

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

< 精検受診率 >

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

< 精検未把握率 >

精検結果が把握されておらず、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、早急に精密検査結果を把握できる体制を検討してください。

【 福生市 】 乳がん検診 プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく乳がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上:隔年)	している
検査方法 (視触診及びマンモグラフィ)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		17,720	
【東京都調査による対象者率(市町村部): 73.1%】			
実際の受診者数		1,023	

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

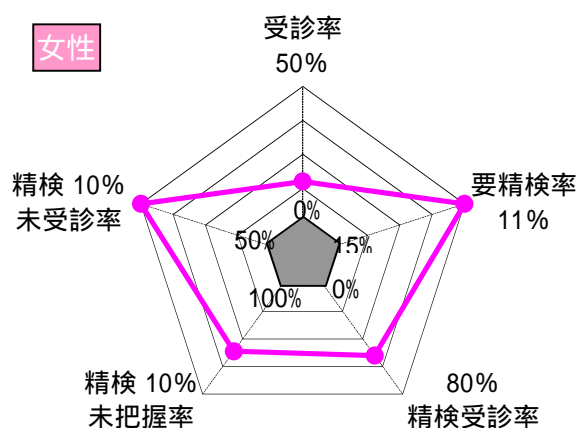
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	していない
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		15.1%	
要精検率	11%以下		9.6%	
精検受診率	80%以上		52.0%	
精検未把握率	10%以下		44.9%	
精検未受診率	10%以下		3.1%	
陽性反応適中度	2.5%以上		4.1%	
がん発見率	0.23%以上		0.39%	

【評価結果】



< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 精検受診率 >

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

< 精検未把握率 >

精検未把握率が非常に高く、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、精密検査結果の把握方法を検討してください。